

千城台地区学校適正配置

地元代表協議会だより

第6号

千城台地区
学校適正配置
地元代表協議会

現状での中学校統合を見送りで合意

千城台地区学校適正配置地元代表協議会では、現状における千城台西中と南中の統合の見送りを全会一致で合意し、各中学校が8学級以下になり、小規模による支障が生じた時には再度協議をしていくこととしました。現在は、これらを前提に小学校統合の具体的な協議を行っています。

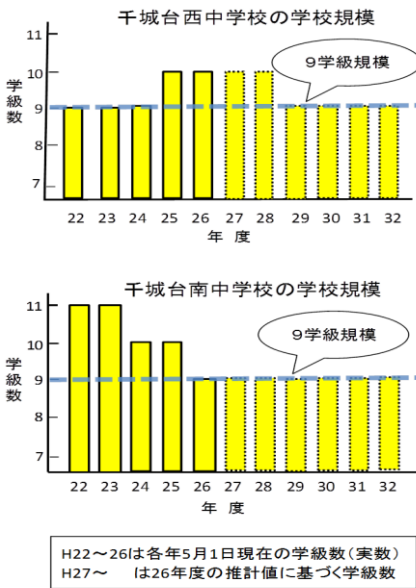
中学校の統廃合をめぐっては、その後の小学校統合の組合せや、現状の千城台地区の中学生にとつてより良い教育環境は何か等、様々な意見が出され、協議が続いてきました。将来、統合した規模の中学校に通学させたいとする小学校保護者の意見。そして、現状の学校規模が継続するのであれば、中学生の教育環境の状況を考えると、地域に2校の中学校は必要とする中学校保護者の意見。異なる2つの意見をもとに議論をするため、まずは小・中学校保護者代表による分科会を開いて案をまとめ、その後には全体会を開く方法で協議を進めました。第26回目から行われた分科会では、各校で実施した保護者アンケートの結果等を踏まえた熱心な議論が続き、1月28日に開かれた第28回目の全体会において、中学校の統合を見送ることで合意に至りました。

※協議会における合意事項とその主な理由
【合意事項】

当面、中学校の統合は見送る。ただし、両中学校において学年2学級になった段階で統合協議を再開する。

【主な理由】

- ① 両中学校とも今後も学年3学級（9学級規模）を維持できる推計であること【左グラフ参照】。
- ② 現状、学級数が少ないことなどによる学校運営上の課題は感じられないこと。
- ③ 生徒指導上の様々な問題を抱えた生徒への対応や過去の歴史を踏まえ、現状の学校規模で地域に2校存在することを保護者及び地域が望んでいること。



小・中学校保護者代表による分科会で協議継続

今後は、中学校2校を前提に、①小学校統合の組合せ、②統合校の位置、③統合の時期、が論点になっていきます。引き続き、学校保護者代表による分科会で原案を作成し、全体会でも協議して、合意形成を図ってまいります。

【会長挨拶】

千城台地区学校適正配置地元代表協議会

会長 氏家 英助

学校統合は教育環境及び街づくりに大きな変化を伴います。二十二名で構成する千城台地区学校適正配置地元代表協議会としては事の重大性から慎重に検討を重ねて来ましたが、

去る一月の協議会に於いて「西中と南中の統合は当面見送る。」との合意に達しました。この間、学校保護者を中心にアンケートの実施、各種会合により意見集約が図られました。関係各位のご尽力に深く感謝申し上げます。引き続き、小学校統合のあり方を協議します。既に論点整理は行われており、今後は「統合すれば、こんな学校の姿になる・・・」との具体的なイメージを共有しながら、



熱心な議論が続く協議会

分かりやすく協議を進めてまいります。関係各位のご協力をお願い申し上げます。

小学校は統合すると どう変わるのか

現在、協議会では小学校の統合に向けた組合せや統合校の位置、統合の時期といった具体的な協議を行っています。しかし、統合協議が始まって5年目に突入し、当初、話し合われてきた「統合するとどう変わるのか」ということへの共通理解が薄らいできてしまいました。そこで、今回は小学校が統合するとどう変わるのかについて、まとめてみました。

○そもそも「なぜ統合?」

千城台地区の小学校は、昭和40～50年代に開校され、一時はかなりの児童数・学級数がありました。しかし、その後は減少し、平成26年度は千城台東小を除き「小規模校」(全校で11学級以下)となっています。そこで、この地区における小規模校化と、それに伴う課題への対応を検討することが必要になりました。

○小規模校のメリット・デメリット

小規模校は、「アットホームな結びつきができる」等のメリットがある反面、「合唱や合奏、球技等の大人数での活動ができない」等の教育活動への支障や、「学級替えができない」ことで人間関係が固定してしまう」等のデメリットがあります。

○小学校の統合について、協議会では何が決まっているのか。

平成24年3月に行われた第14回協議会では、小規模校化による支障を解消・軽減するため小学校の統合は必要であることが合意されています。

○統合により、子どもたちの環境はどう変わるか。

学年当たりの学級数が増えることにより、学級替えが可能となり、多様な人間関係の中で切磋琢磨できる環境が生まれます。

また、大きな集団での学習活動が可能になります。

○統合校の施設はどうなるか。

統合対象校は両校とも廃校になり、新しい学校名、校歌、校章等をもつ統合新設校が開校します。

ただし、校舎は原則として対象校のどちらかを使用し、大規模改修を基本としたリニューアルを実施します。



自動で水が出る手洗い場



ドライ化した給食室

○子どもたちの安全・安心

通学路の安全確保については、安全マップの作成やセーフティウォッチ事業等の活用に加え、統合校安全指導員による巡回・見回りを実施します。

統合校の子どもたちの心のケアを図るために、統合前の職員をバランスよく配置するとともに、統合による不安を解消するため、スクールカウンセラーを一年間配置します。

○学校跡地はどうなるか。

千葉市資産経営基本方針に基づき、中長期的な視点から、人口・世代構成や、周辺施設の状態、地元住民の要望などを総合的に勘案し、跡地利用を検討していきます。

○先行統合校の状況

この4月に幸町小学校と花見川中学校が開校し、すでに千葉市として10校の統合新設校が誕生しています。先行地区で統合後に実施した児童生徒、保護者、教職員のアンケート・聴き取り調査では、「友だちが増えた」、「学校が活性化し、元気になった」、「行事に活気が出た」、「トイレなどがきれいになった」という声が多く聞かれています。



平成 27 年 4 月 26 日発行